

会 議 要 録

名 称	西予市移住交流促進協議会	
開 催 日 時	令和2年7月27日(月) 19:00～ 21:00	
開 催 場 所	西予市教育保健センター4階 大会議室	
出席者	委 員	委員参加 37人(欠席 3人)
	事務局	<p>政策企画部まちづくり推進課 課長 長野 静香 課長補佐 清家 昌弘 係長 宇都宮 弘志郎 係長 久保田 学 城川支所総務課地域係 係長 小田原 誠 (一社)西予市移住定住交流センター 穴井 祐介 小林 瑛里奈 山口 聡子</p>
議事内容(要旨)	<p>19時開会</p> <p>【開会のあいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西予市政策企画部まちづくり推進課長 長野 静香 <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局紹介 ・中間支援組織の設立について (一社)西予市移住定住交流センター 穴井氏から説明 代表理事 愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科 准教授 羽鳥剛史氏から挨拶 <p>【会長副会長の選出について】</p>	

事務局： 西予市移住交流促進協議会設置要綱第4条に基づき構成員の互選により定めると規定。選出方法について意見を求めます。

委員： 特段意見なし

事務局： 特段の意見がないので事務局案をお示ししてよろしいか。

委員： 異議なし

事務局： それでは会長に河野直樹氏、副会長に羽鳥剛史氏を案としてご提案いたします。

《賛成多数につき承認》

ここより会の運営を河野会長及び羽鳥副会長に依頼する。

【河野会長あいさつ】

あいさつのなかでアンケート内容にあった、この協議会がどの程度政策実現に寄与できるのか長野課長に質問。

長野課長： 当協議会で提案のあった内容については実現性、費用対効果などを十分に精査しながら市民の声として政策に反映していきたい。

【羽鳥副会長挨拶】

【協議事項（進行 河野会長）】

(1) 西予市移住交流促進協議会について
事務局より説明

質疑

委員： 本日参加していない委員についてオンライン上での情報共有などを考えはあるか。

事務局： 本日の会議は議事録を作成し、市のHPに掲載します。欠席された委員については議事録を確認いただくことで情報共有を図りたい。

委員： 今後、また新型コロナウイルスの感染拡大の懸念から今後も会議が遅れるかもしれない、WEB会議なども検討できないか？

事務局： ご指摘のとおり、新型コロナウイルスが感染拡大となれば会の遅延が予想できる。大人数の全体会議となるとWEB会議ができない環境の方もいる

かもしれないので難しいとは思いますが部会等でできるところから工夫していきたい。

(2) アンケート結果について

事務局から説明

質疑なし

(3) 各部会での協議

事務局から説明。全体会を一時中断し部会を開催しワークショップを行う。部会閉会后、ワークショップでの意見を全体会で発表する。

※部会の議事録は別紙、各部会の会議要録を参照

(4) 各部会から発表

全体会を再開。各部会での意見を発表

○空き家対策部会からの発表

(シーバース玲名部会長)

空き家部会では、貸せない原因として家主不明、家財道具や仏壇の存在、改修費用も高いことが共通認識としてあった。また、賃貸よりも売却を希望している家主が多いため、利用希望者側にとっての障壁が高い。

制度として平成28年4月1日以降の移住者には空き家改修の補助があるのは、空き家の利活用を希望している委員でも知らなかったなどの意見があった。その他に、アクションプランを考えていく上で他の部会との連携が必要である、移住してから仕事を探すのでは遅いので、家探しと職探しをセットで紹介できるような連携しなければと意見があった。

また、空き家について改修や解体する状態になることを防ぐことも大事である。狩江地区では、地域住民がお互いに助け合いながら、換気や掃除など、空き家の管理をしている。一方で、倒壊のリスクがある家主不明の空き家もあり、周辺住民は不安な気持ちを抱えている。

他の地域では、空き家の利活用も積極的に行われており、長野県諏訪市では、空き家を解体したときに発生する建材や建具を一ヶ所の倉庫に集約して、DIYを行う人たちに販売するリビルディングセンターを運営している事例があり、とても面白い取組みとして部会で情報共有した。また、将来このように使ってほしいと、空き家になりそうな候補

地の家主に事前に聞いておくのはどうかなどの意見もあった。

○雇用・生業部会からの発表

(松本恭典部会長・宇都宮功志郎ファシリテーター)

テーマとして農業者の減少や後継者の確保、人材育成、外部人材の確保の大きく3つのテーマに分けて議論した。

意見として収入が不安定、教育の場が少ない、外部人材の確保の分野ではSNSの活用、子育て支援や移住ツアーなどの実施などの意見があった。

アクションプランについては既存の国・県などの補助事業を使うなど意見があったなか、委員が共感した意見として、新規就農には農地の確保が難しい、農業を始めるきっかけとして行政がある程度整えレンタルできるような環境整備をやると農業に親しみがわき、参入しやすいのではないかという意見があった。これは農地法上の制限もあると思うが実際に実施している自治体もあると思うので、参考にして掘り下げていきたい。また、農地の基盤整備も併せて進めていくと良いという意見もあった。

中学や高校のうちから農業や起業にしても経営するという事で自らの生業づくりには非常に大事、本気でやりたい人に本気で経営ノウハウを教え込む、そういった事を宇和高校や三瓶分校、野村高校では生徒数が少なくなっているので、本気でやりたい人に本気で教え込む学科づくりを公営塾も含めて具体的にやっていければいいのではないかという意見があった。

人材育成についてのアクションプランだが、1人にしない、相談をできるような職場の環境づくり、地域での環境づくりや積極的に研修に参加させるという意見があった。その他にそもそも色々なタイプの人があり、会社に就職しながら農業を希望する人がいたり、専業で独立したい人もいる、そのような個別のニーズを把握して企業や地域、行政が個々にあった支援をしていく事が大事なのではないかという意見があった。

外部人材の確保の点ですが、これが出来れば人材不足や担い手不足が解消できるが、従来のような漠然とした「農業やりませんか？」というような呼びかけではなく、ターゲットを明確にした呼びかけであったり、有料な広告を使

うなどが有効ではないかと考える。また大学や学生、ふるさと会など出身者が外に出て活躍している方たちとの繋がりを作ったりすることが大事である。その他きっかけづくりとして、単身でも西予市を訪れやすいようシェアハウスがいろいろなところがあれば、もうちょっとハードル低く西予市の暮らしを体験できるきっかけになるのではないかと、どうしてもいきなり住まいを確保するのは難しい、あとは働き方が変わってきているので専業ではなくプラスαという働き方を認めながら企業も地域も受け入れていただいて、行政も半農半Xを支援してはどうかという意見があった。

○子育て・教育・福祉部会からの発表
(宇都宮伸郎部会長)

アンケートに基づいてそれぞれの意見を出し合った。子育て・教育・福祉と言っても、幅がすごく広い、これからの課題であるがそれぞれのジャンルにわけて話し合いを進めていくなど、部会としての進め方を考えないといけない。そのなかで、今日は子育て教育について深掘していった。魅力ある学校づくりが大事であるが、高校だけでなく義務教育からの魅力づくりが大事なのではないか。中学校に部活動が少ないから、そこの中学に行くと希望の部活がない、選択肢がない。地域の高校に行きたくない理由を考えなければならない。そしてそれを協議会が学校教育へ提案できるのではないかと意見が出た。コロナ禍になってリモートの授業なども考えさせられるいい機会と捉えて、今後考えていければいいなと思う。

そのなかでも、西予市は基本的に子育てしやすい環境、豊かな自然に加えて少人数だからこそ丁寧な保育・教育が提供できている。そういった部分を住んでいる人間側から発信できるような形にしていけたらいいと思う。

あとは、子育てしている人たちが魅力ある充実できる市にしていけば、移住してくる方も増えてくるのではないかと考える。

最後に、大学に行ったり社会人になる子供がいるが、出ていくのはしょうがないと考えていた、この考えから改めていきたい。

○PR ブランディング部会の発表

(岡崎 晃裕部会長)

PR 部会ではそれぞれの部会で話し合われたことをどう PR ブランディングしていくかを進めていくわけですが、具体的なプランができてないので、PR ブランディング部会では実現できれば良いなと思う話をまとめてみた。

基本的には PR には西予市民向けの内なる PR、市外の方たち向けの PR があり、移住者希望者には市外の方たち向けの PR になる。ただ、「西予市はいいですよ、住みませんか」といっても説得力を持たすためには、まず市内の方に西予市を理解してもらい好きになってもらわないとダメなのではと考えます。一例としていまコロナで内外騒がしいですが、西予市に関しては食べるものに困りません、自給率は 100% ですよという言い方をすれば、少なくとも食べるものに困ることはないというイメージをしてもらえる。それを具体的に市内の人に知ってもらうには、例えば市内のスーパーや商店で 365 日西予市のものが並んでいる、買える、食べれるっていう環境を整えてみてはどうか。そういうことをすることで少なくとも、生活するうえで食べる物には困らない、西予市はすごいところだと理解してもらえるのでは。

また、子供たちに積極的に西予市を好きになってもらう、今までにない教育の形も欲しいのではないかと。ただ学校教育に入れ込むには難しいと思いつつ、城川にジオミュージアム施設ができるのでそこを有効活用することで西予市の魅力を知ってもらえば、子供たちが将来、仮に市外に出ても西予市の良いところを PR してもらえるそういう人になってもらえるのでは。

その他にも西予市には空き農地が多いのでそれを有効活用しながら自給率が高い根拠を示していけたらいいと思う。このように西予市の人たちに西予市を好きになってもらいながら、移住希望者に対しては、SNS とか HP などの手法はあるが、より具体的に定住するために単なる住居の情報だけでなく、この家に住んだらどういう仕事があってどこに買い物できると、ワンパッケージの情報というものもあっていいのではないかと。

地域にどのような人が住んでいるかをイメージしてもらうということも大事。地域の住人がどのような生活をしているのかを参考にそこでの生活をイメージしてもらう。西

予市はいいところがいろいろあると思うが、ネット環境が整っていないところもあるという話も聞いた、生活するにあたって最低限必要な市民に格差のないような環境を整えることも大事、そのうえで西予市であったらどこでもネットに繋がりますよ。西予市を選んでもらう仕組みづくりとして、まず地元の人が西予市を好きになってもらわなければならない。そしてそこに住むにあたってどういうことができるのかってことを伝えていかなければならない。

6、その他

河野会長： これから部会としての活動を細かな部分でのつながり、他の部会とのつながりを深めて進めていながら方向性を出せていけば良いかと思う。

発表を聞いて質問はありませんか。

《特になし》

河野会長： なければ羽鳥先生に講評いただきます。

羽鳥副会長： 長時間にわたり熱心な議論お疲れ様でした。いろいろなアイデアが出ている中で、2点だけ感じた点として、それぞれの部会の話聞いていると、ほかの部会との連携や関連する話題が多いと感じた。そのあたりがこの協議会のひとつの強みであると思う。ひとつのテーマで議論していることは他の市町でもあるのですが、4つのテーマを一度に議論する場ってというのはあまりないと思う。それが西予市の移住交流定住の一つの戦略のポイントになると思う。ぜひこれからもどう連携していくのかを意識することで、西予市流のやり方でいいアイデアに繋がるのではないかと思った。

もう1点は根本的なテーマに行きついている部会も多く、雇用・生業部会の分野で言うと本気でやりたい人に徹底的に教育する場を設けようとか、あるいは子育ての部会で学校づくりの話題があったが、神山町は実際に高専で情報技術を教育する学校を時間をかけて

作りあげようとしているのでこれは夢物語ではない。移住定住の議論を突き詰めていくと、これまで西予市の中で出ていく事が当たり前だと思っていた部分が見直そうという話もあったが、皆さんがついつい当たり前とっていたり諦めていた部分についてももしかしたら、変える余地もあると思う。最初のアンケートに具体的にどこまで具体的な政策の実現に繋がるのかと懸念を抱いてる方もいらっしゃるかとは思いますが、まずは夢物語でも突拍子のないものでもこれからの西予市の在り方を根本的に変えるような余地がもしあれば、今後ぜひ議論に繋げてもらえる事でよりよい案になる可能性があるのではと感じた。各部会と関連性と根本的なテーマということを引き続き議論して行ってほしい。

【閉会（羽鳥副会長）】

21 時閉会

備 考